

病 院 だ よ り

「第1回しんぜん院外健康教室」のご案内

患者さんとともに取り組む医療安全
お薬を安全に使うために

薬剤師って何をしている人？ -その2-

大東美佐江
梅田 清隆
山根 靖弘

国際親善総合病院

〒245-0006 横浜市泉区西が岡 1-28-1
TEL 045(813)0221 (代表)
FAX 045(813)7419 (庶務課)

URL <http://shinzen.jp>

国際親善総合病院看護部
モバイルサイト



病院だより

中川地区センター・国際親善総合病院 共催

第1回

しんぜん院外健康教室

開催日時 平成22年7月16日(金) 10:00~11:30

開催場所 中川地区センター 2階中小会議室

急増する前立腺がん —最近の診断と治療法について—

講師：国際親善総合病院泌尿器科部長 村井哲夫

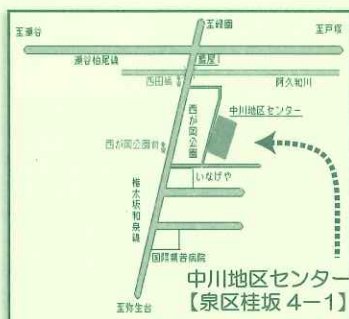
(日本泌尿器科学会専門医指導医・日本癌治療学会認定医)

現代とともに日本人がかかりやすい「がん」の種類が変わってきました。昔は胃がんや肝臓がん、子宮頸がんが多かったのですが、最近では大腸がん、肺がん、乳がんなどが増えています。これらに加えて前立腺がんが1990年頃から急増しており、2020年には肺がんに次いで国内男性がんの2位になると予想されています。

かつて前立腺がんの早期発見は困難で、初診時6割以上に患者さんが進行がんであったほどです。しかし、近年「PSA検査」が登場して早期に治療を開始することが可能となり、完治するケースが非常に増えました。治療手段も豊富で、ガン悪性度や広がり、患者さんの年齢や希望に応じて選ぶことができます。今回はこうした前立腺がんの特徴と診断方法、治療の種類、さらに予防についてもお話したいと思います。

**当日受付
参加費無料**

皆様のご参加お待ちしております。



国際親善総合病院

【お問い合わせ先】庶務課 木村・小笠原

TEL. 045-813-0221(内線2274)

患者さんとともに取り組む医療安全

皆さんは、チーム医療という言葉が聞かれたことがありますか？医療は、医師・看護師・薬剤師・栄養士・理学療法士・検査技師・臨床工学士・事務員などの多職種がチームとなり協力して行われます。そして、患者さんは医療を受ける当事者であり、私たちのパートナーであり、チームの一員です。安全で安心できる医療の実施には、このチーム力が重要となります。ぜひ、患者の皆さんに当院の医療安全の取り組みへ参加して頂き、総力戦で安全強化を図りたいと思っております。

今回は、すでに患者さんにご協力頂いております、誤認防止のため「フルネームで名乗って頂く」、点滴漏れやアレルギー発見のため「点滴中の異常を教えて頂く」などの取り組みと共に、当院で推進しています「危険を予知して回避する危険予知訓練」のことをご紹介します。

医療安全管理室次長 大東 美佐江

お薬を安全に使うために

近年、メタボリックシンドロームに代表される生活習慣病の方が増えてきています。血圧降下薬や糖尿病治療薬などは継続的に長期間服用する事が多く服用時の注意事項や副作用に対する認識が徐々に薄れてしまいがちです。

また、複数種類のお薬を服用されている方が多く飲み合わせ等にも注意が必要です。昨今は2～3ヶ月分の長期投薬が行われるため診察の間隔が長く急な体調の変化を病院で確認することも難しい状況です。そのような状況でお薬を安全に使用していただくためには使用されている患者さんご本人の協力がなくてはなりません。今回は、注意していただきたい服用方法や飲み合わせ、副作用が起こった時の対処などについて生活習慣病で良く使われる薬剤を中心にお話をします。

薬剤部次長 梅田 清隆

ご案内

このテーマは

平成22年7月9日(金) 15:00～約1時間の健康懇話会にて

講演予定です。

(入場無料、予約不要、どなたでもご自由にご参加ください。)

薬剤師って何をしている人？ -その2-

現在、医療における治療手段の中で薬物治療の比重は、日増しに大きく、複雑になってきています。このような現状の下、薬剤部では患者さんに安心してお薬を服用・使用していただくために、あらゆる努力をしています。今回、薬剤師が医療の担い手として、どのようにお薬と関わっているのか、当院の薬剤部について、前回、お薬の調剤に関係する業務についてご紹介させていただいたので、今回は病棟や情報に関係する業務を中心にご紹介させていただきます。



病棟業務

病棟業務では、薬剤師が入院されている患者さんのもとに伺い、今までのアレルギー歴や服用中のお薬があるかなどをお聞きし、その上で入院中のお薬の説明を行っています。この説明を通して、そのお薬が正しく使用されているか、また、副作用がないかなどを確認し、医師・看護師等と連携をとって、入院中の薬物治療について安全で最適なものを検討しています。もちろん、飲み薬だけでなく、注射薬についても使用する量や併用する薬同士の影響、使用方法などについて問題がないか確認をしています。



医薬品情報管理業務

お薬を正しく安全に使っていただく為には最新の正確な情報が欠かせませんが、医薬品は発売後も、製剤改良や副作用、新たな治療法の確立など毎日のように新しい情報が発信されています。医薬品情報管理室ではこのような情報を収集、評価して、最適な薬物療法が実施できるよう努めています。また、患者さんにご協力いただいて、開発中の薬（治験薬）の効果や安全性を調べる試験（「治験」といいます）のお手伝いもしています。



その他業務

お薬によっては微妙なさじ加減が難しい薬もあります。このような薬について、血液中の濃度を測定し、治療に最適な濃度であるかチェックし、必要に応じて適切な投与方法等を医師に提案し治療に役立てていただいています。この他にも、院内の様々な活動（感染制御チーム、疼痛緩和サポートチーム、栄養サポートチーム、褥瘡対策部会等々…）に参加し、薬剤師の立場から様々な提案を行っています。

いかがでしたでしょうか。このように私たち薬剤師は薬の調剤だけにとどまらず、薬に関連する様々な分野で薬物治療を強力にサポートしています。もし、お薬について何か疑問点などありましたら、お気軽に薬剤師にご相談下さい。

薬剤部 山根 靖弘